

「BRAIN and NERVE」第 65 巻 総目次

2013 年 (第 1～12 号)

頁数は通巻数, () 内は号数

(特 集)

〈Corticobasal Syndrome〉

- 序……………饗場 郁子・ 5(1)
CBS の病理学的背景 ……若林 孝一・三木 康生・ 9(1)
CBS と関連する遺伝子変異

- ……………土井 宏・田中 章景・ 19(1)
CBS の臨床 ……下畑 享良・西澤 正豊・ 31(1)
CBS における画像診断

- ……………篠遠 仁・平野 成樹・ 41(1)
CBS のバイオマーカーと鑑別診断 ……徳田 隆彦・ 55(1)

〈血液脳関門研究の進歩〉

- 序——血液脳関門の基礎知識……………神田 隆・ 117(2)
動的インターフェースとしての脳関門輸送システムと脳関門
生理学・創薬研究

- ……………立川 正憲・内田 康雄・寺崎 哲也・ 121(2)
PET を用いた血液脳関門機能のイメージングと薬物の脳移
行性……………高野 晴成・須原 哲也・ 137(2)

血液脳関門とアルツハイマー病

- ……………桑原 宏哉・西田陽一郎・横田 隆徳・ 145(2)
血液脳関門とライソゾーム蓄積病治療

- ……………浦山 昭彦・ 153(2)
血液脳関門と神経免疫疾患
……………清水 文崇・神田 隆・ 165(2)

〈次世代シーケンサーによる神経変性疾患の解析と展望〉

- パーソナルゲノム研究と神経疾患——overview
……………戸田 達史・ 227(3)

- アルツハイマー病のパーソナルゲノム解析
……………桑野 良三・原 範和・ 235(3)

- 東大病院ゲノム医学センターにおける取り組み——パーキン
ソン病のパーソナルゲノム解析を中心に
……………三井 純・石浦 浩之・辻 省次・ 247(3)

- ALS のパーソナルゲノム解析 ……田中 章景
曾根 淳・熱田 直樹・中村 亮一
土井 宏・児矢野 繁・祖父江 元・ 257(3)

- パーソナルゲノム研究の倫理的課題
……………加藤 和人・三成 寿作・ 267(3)

〈Antibody Update〉

- 神経系自己抗体産生のメカニズム……………有村 公良・ 323(4)

NMO 関連疾患と抗 AQP4 抗体

- ……………高井 良樹・三須 建郎
高橋 利幸・中島 一郎・藤原 一男・ 333(4)

グルタミン酸受容体自己抗体

- ……………高橋 幸利・保立麻美子
植田 佑樹・山口 解冬・那須 裕郷・ 345(4)

脊髄小脳変性症と自己抗体

- ……………三苦 博・南里 和紀・ 355(4)

- 橋本脳症と自己抗体……………米田 誠・ 365(4)

- 抗大脳基底核抗体……………林 雅晴・ 377(4)

傍腫瘍性神経症候群と自己抗体

- ……………林 祐一・犬塚 貴・ 385(4)

Stiff-person 症候群と自己抗体

- ……………富岳 亮・田中 恵子・ 395(4)

- VGKC 関連抗体……………渡邊 修・ 401(4)

自己免疫性ニューロパチーと抗糖脂質抗体

- ……………海田 賢一・楠 進・ 413(4)

- 急性汎自律神経異常症とニコチン作動性アセチルコリン受容
体抗体……………古賀 道明・ 425(4)

重症筋無力症の自己抗体

- ……………本村 政勝・成田(杵田) 智子・ 433(4)

抗 VGCC 抗体とランバート・イートン筋無力症候群

- ……………酒井 和香・中根 俊成・松尾 秀徳・ 441(4)

- 筋炎特異自己抗体……………藤本 学・ 449(4)

アルツハイマー病に対するアミロイド免疫療法

- ……………坂井 健二・山田 正仁・ 461(4)

- 変性疾患(アルツハイマー病を除く)における抗体療法の現
況……………金丸 和富・ 469(4)

〈てんかん——新しいパースペクティブ〉

対談 てんかんの新しいトピックス

- ……………河村 満・廣瀬源二郎・ 499(5)

- 「てんかん」を再度オーバービューする——歴史・分類・機
序・治療……………廣瀬源二郎・ 509(5)

- ヒトの神経生理からみた「てんかん」——私の考える「てん
かん」……………宇川 義一・ 521(5)

てんかん原性脳形成異常の病理診断分類 — 現状を正しく理解するためのガイド……………新井 信隆・ 531(5)	
てんかんと高次脳機能障害	
……………杉本あずさ・二村 明德・河村 満・ 541(5)	
側頭葉てんかんと認知機能 — 新しい認知機能研究への展開	
……………山野 光彦・赤松 直樹・辻 貞俊・ 551(5)	
非痙攣性てんかん重積状態の臨床と病態	
……………永山 正雄・ 561(5)	
てんかんの神経画像	
……………山尾 幸広・國枝 武治・菊池 隆幸	
松橋 眞生・澤本 伸克・松本 理器	
岡田 知久・宮本 享・池田 昭夫・ 573(5)	
〈見せる・仕分ける — 脳機能解析の新技术〉	
マウスの心の光操作 — 脳細胞活動と心の機能の因果関係を探る……………松井 広・ 609(6)	
慢性疼痛マウスの大脳皮質一次体性感覚野における神経回路再編 — 生体イメージングによる解析	
……………江藤 圭	
石川 拓也・Kim Sun Kwang・鍋倉 淳一・ 623(6)	
ウイルスベクターを用いた遺伝子導入による特定神経回路の除去 — イムノトキシン神経路標的による霊長類の大脳基底核機能解析……………高田 昌彦・ 635(6)	
マカクザル大脳皮質高次視覚野における物体カテゴリー情報の分散表現と解説……………宮川 尚久・長谷川 功・ 643(6)	
グルタミン酸による非シナプス性伝達の可視化解析	
……………大久保洋平・ 651(6)	
神経画像のネットワーク解析	
……………平野 成樹・山田真希子・ 659(6)	
〈あしたの脳梗塞〉	
一過性脳虚血発作 (TIA) — 過去, 現在, そして未来	
……………佐藤祥一郎・峰松 一夫・ 729(7)	
虚血性脳卒中の臨床診断 update	
……………伊井裕一郎・富本 秀和・ 739(7)	
あしたの静注血栓溶解療法……………豊田 一則・ 753(7)	
これからの抗凝固療法 — 脳塞栓と心房細動	
……………上坂 義和・ 761(7)	
抗血小板療法 — 再発予防 update ……内山真一郎・ 771(7)	
微小脳梗塞の画像診断 update ……山田 恵・ 783(7)	
加齢性白質病変 (leukoaraiosis) update	
……………三木 幸雄・坂本 真一・ 789(7)	
認知症の診断と治療を目指した小血管病の管理	
……………猪原 匡史・ 801(7)	
CADASIL の診断と治療……………水野 敏樹・ 811(7)	
無症候性脳微小出血の診断と治療	
……………ト蔵 浩和・山口 修平・ 825(7)	

脳アミロイド血管症の病態と治療 — 家族性トランスサイレチン型脳軟膜アミロイドーシスを含む	
……………池田 修一・ 831(7)	
脳表へモジデリン沈着症の診断と治療	
……………山脇 健盛・櫻井 圭太・ 843(7)	
血管障害の疫学 update	
……………長田 乾・鈴木 一夫・ 857(7)	
酸化ストレスによる脳血管病態	
……………軸丸 美香・井上 正康・ 871(7)	
脳小血管病変 — 脳アミロイド血管症の病理を中心に	
……………緒方 紬・山西 博道・植田 初江・ 879(7)	
〈こころの時間学 — 現在・過去・未来の起源を求めて〉	
こころの「現在」の科学 — 時間の錯覚からわかること	
……………北澤 茂・ 911(8)	
脳の中の現在……………村上 郁也・ 923(8)	
過去と現在をつなぐ記憶の機構	
……………五十嵐ひかる・野村 洋・池谷 裕二・ 933(8)	
時間の測り方 — 脳による時間の符号化	
……………田中 真樹・國松 淳・大前 彰吾・ 941(8)	
ヒトの時間認知機構の解明 — 神経心理学的アプローチ	
……………河村 満	
杉本あずさ・二村 明德・緑川 晶・ 949(8)	
〈Common disease は神経学の主戦場である — 現状と展望〉	
鼎談 神経内科は common disease を診ているか?	
……………河村 満・神田 隆・桑原 聡・ 1007(9)	
認知症……………森 悦朗・ 1017(9)	
急性期脳梗塞の診断と治療	
……………芝崎 謙作・木村 和美・ 1023(9)	
てんかん……………溝渕 雅広・ 1031(9)	
頭痛……………竹島多賀夫・菊井 祥二・ 1043(9)	
めまい……………城倉 健・ 1057(9)	
末梢神経障害……………桑原 聡・ 1071(9)	
〈神経系の発達メカニズム — 最近の話題〉	
神経回路形成におけるミクログリアの役割	
……………星子 麻記・山本 亘彦・ 1113(10)	
脳の形成とグルタミン酸……………田中 光一・ 1121(10)	
大脳皮質の神経細胞配置と統合失調症	
……………久保健一郎・仲嶋 一範・ 1133(10)	
雌型脳と雄型脳……………山元 大輔・佐藤 耕世・ 1147(10)	
脳発達の臨界期のメカニズム — 精神・発達障害への示唆	
……………佐條 麻里・森下 博文・ 1159(10)	
〈Close Encounters — 臨床神経学と臨床免疫学の遭遇と未来〉	
鼎談 臨床神経学と臨床免疫学のボーダーゾーン	

……………山村 隆・上阪 等・神田 隆・1235(11)	
神経ベーチェット病の現況……………廣畑 俊成・1245(11)	
中枢神経ループスの診断と治療……………田中 良哉・1255(11)	
神経内科医が診る筋炎……………清水 潤・1269(11)	
膠原病内科医が診る筋炎	
……………五野 貴久・勝又 康弘・川口 鎮司・1275(11)	
皮膚科医が診る筋炎……………神人 正寿・1283(11)	
封入体筋炎 — 自己免疫疾患か変性疾患か	
……………漆葉 章典・西野 一三・1291(11)	
血管炎に伴う末梢神経障害……………大矢 寧・1299(11)	
ウェゲナー肉芽腫症と神経合併症	
……………朝倉 邦彦・武藤多津郎・1311(11)	
抗リン脂質抗体症候群 — 脳血管障害を中心に	
……………大熊 壮尚・北川 泰久・1319(11)	
シェーグレン症候群と末梢神経障害	
……………小池 春樹・祖父江 元・1333(11)	
IgG4 関連疾患による中枢・末梢神経障害	
……………小堺 有史・1343(11)	
分子標的薬による自己免疫性神経疾患の治療	
……………中島 一郎・1353(11)	
分子標的薬と PML — モノクローナル抗体療法時代の PML	
……………高尾 昌樹・1363(11)	
ステロイドミオパチーの発症機序, 診断と治療	
……………上阪 等・1375(11)	
インターフェロンと自己免疫疾患	
……………新野 正明・宮崎 雄生・1381(11)	
〈プロテインパチーの神経病理学〉	
鼎談 カタチと蛋白 (前編)	
……………中野 今治・高尾 昌樹・神田 隆・1425(12)	
β アミロイドの神経病理 — 「脳への沈着」と「脳からの排出」	
……………若林 孝一・三木 康生・1433(12)	
タウオパチーの神経病理学……………吉田 真理・1445(12)	
α シヌクレイン病変のはじまりとひろがり — パーキンソン病を中心に	
……………内原 俊記・1459(12)	
TDP-43 プロテインパチーの神経病理	
……………秋山 治彦, 長谷川成人・1477(12)	
鼎談 カタチと蛋白 (後編)	
……………中野 今治・高尾 昌樹・神田 隆・1491(12)	
(総 説)	
てんかんと運転……………松浦 雅人・ 67(1)	
ギャンブルにはまる脳…鶴身 孝介・高橋 英彦・ 77(1)	
加齢と神経変性疾患における RNA 酸化傷害	
……………布村 明彦・ 179(2)	
HIV 感染に伴う神経疾患	
……………三浦 義治・岸田 修二・ 275(3)	

iPS 細胞を用いた高齢発症神経変性疾患研究の可能性	
……………伊東 大介・八木 拓也・鈴木 則宏・ 283(3)	
線条体を含む脳卒中後の中脳黒質二次変性	
……………大江 康子	
林 健・内野 晃・棚橋 紀夫・ 289(3)	
重症筋無力症の非運動症状 — 胸腺腫に伴う免疫異常を中心に	
……………鈴木 重明・ 477(4)	
盲視の神経機構……………吉田 正俊・ 671(6)	
マカクザルを用いた社会脳研究の最近の進歩	
……………磯田 昌岐・ 679(6)	
症例 H.M. の功績……………河内 十郎・ 959(8)	
ハイリスクハイリターンの行動を促す島皮質	
……………石井 宏憲・筒井健一郎・飯島 敏夫・ 965(8)	
意思決定と脳理論 — 人間総合科学と計算論的精神医学への展開	
……………中原 裕之・鈴木 真介・ 973(8)	
古くて新しいビタミン B ₁₂ と末梢神経障害	
……………田中 啓之・1077(9)	
記憶の分子機構 — 神経細胞の情報伝達効率を調節するメカニズム	
……………奥野 浩行・1171(10)	
DIAN 研究……………嶋田 裕之・1179(10)	
Restless legs 症候群の診断と新規治療法 — I. 病態生理と診断	
……………平田 幸一・鈴木 圭輔・1185(10)	
Restless legs 症候群の診断と新規治療法 — II. 治療	
……………平田 幸一・鈴木 圭輔・1391(11)	
アストロサイトとニューロンの代謝コンパートメントからみたパーキンソン病の病態と治療	
……………高橋 慎一・関 守信・鈴木 則宏・1497(12)	
(原 著)	
脳の硬さの臨床応用に関する球状圧迫子押込試験による弾性係数の計測	
……………永井 秀政	
高田 大慶・神原 瑞樹・萩原 伸哉	
大洲 光裕・宮崎 健史・秋山 恭彦・ 85(1)	
てんかん性高次脳機能障害の検討	
……………杉本あずさ・緑川 晶・小山 慎一	
二村 明德・黒田 岳志・藤田 和久	
板谷 一宏・石垣征一郎・河村 満・ 195(2)	
癲性斜頸患者を対象としたナーブブロック® (B型ボツリヌス毒素) の単回投与による有効性および安全性を評価するプラセボ対照二重盲検比較試験	
……………梶 龍児・清水 博喜	
高瀬 貴夫・大澤美貴雄・柳澤 信夫・ 203(2)	
アンケート調査に基づいたパーキンソン病患者の骨折危険因子の検討	
……………深田 慶・横江 勝・狭間 敬憲	
山本 洋一・望月 秀樹・佐古田三郎・ 687(6)	

てんかん重積に対するフェノバルビタール静注療法の有効性
村元恵美子
 溝渕 雅広・鷲見 佳泰・佐光 一也
 仁平 敦子・竹内 朗子・中村 博彦・983(8)
 日本人小児部分てんかんに対するレベチラセタム併用療法の
 有効性と安全性の検討—多施設共同非盲検試験
 (N01223) 14 週間での評価
中村 秀文・大澤真木子
 横山 輝路・吉田 克己・鈴木 淳・1083(9)
 統合失調症の治療反応性予測マーカーとしてのトランスサイ
 レチン—プロテオミクスによる予備的解析
中川 伸明・八尾 博史・中原 辰雄
 猪股 晋作・橋本喜次郎・黒木 俊秀・1093(9)
 (症例報告)
 頸動脈内膜剝離術後再狭窄例における術前および再狭窄時の
 頸動脈 MRI 所見 (3 例報告)遠藤 英樹
 上山 憲司・高平 一樹・荻野 達也
 高田 英和・片岡 丈人・瓢子 敏夫
 中川原譲二・尾野 英俊・中村 博彦・93(1)
 認知症を伴うパーキンソンニズムを呈し、嗜銀顆粒性認知症と
 脳血管性パーキンソン症候群の合併と考えられた 1 剖検例
岩崎 靖
 森 恵子・伊藤 益美・出口 晃
 辰己 新水・三室 マヤ・吉田 真理・583(5)
 MRI で髄膜造影を呈し脳生検で診断した脳アミロイド β 関
 連血管炎の 1 例小池 佑佳
 大内 東香・佐藤 朋江・新保 淳輔
 佐藤 晶・佐々木 修・渋谷 宏行
 岡本浩一郎・柿田 明美・五十嵐修一・693(6)
 初期に失行が目立った大脳皮質基底核変性症の 1 剖検例
本間 琢
 板東 充秋・望月 葉子・三浦 直明
 沖山 亮一・松原 四郎・水谷 俊雄・887(7)
 不完全型ヘルフォルト症候群に伴う神経根障害—自験 2
 症例の報告と文献的考察
福原 康介・福原 藍加
 津川 潤・合馬 慎二・坪井 義夫・989(8)
 Broad-range PCR 法による 16 S リボソーム RNA 解析で起
 因菌 *Streptococcus intermedius* が同定された培養陰性脳
 膿瘍の 1 例尾原 信行
 浅井 克則・大楠 清文・若山 暁・1199(10)
 抗神経抗体の存在が確認できた膀胱癌を伴う傍腫瘍性小脳変
 性症の 1 例川西康太郎
 森田 光哉・中原 圭一・手塚 修一
 幸喜 富・富永 薫・遠藤 仁司

屋代 隆・田中 恵子・中野 今治・1401(11)
 肺動静脈瘻を介した奇異性脳塞栓症により spectacular
 shrinking deficit を呈した 1 例
伊藤 愛・伊井裕一郎
 東川 貴俊・村嶋 秀市・富本 秀和・1509(12)
 術前腫瘍塞栓術と腫瘍摘出術により視野障害が段階的に改善
 した胞巣状軟部肉腫の後頭葉内脳転移の 1 例
五十棲孝裕・木戸岡 実・李 英彦
 深尾 繁治・伊藤 清佳・南川 哲寛・1515(12)
 (神経画像アトラス)
 術後に一過性脳梁膨大部病変を呈した脳動静脈奇形の 1 例
内田 和孝
 白川 学・阪本 大輔・安藤久美子
 石藏 礼一・前野 和重・有田 憲生・212(2)
 低血糖症により右片麻痺を呈した 1 例
谷口 昌光・谷口 央・298(3)
 海綿静脈洞内に空気像を認めた眼窩部外傷の 1 例
榊原 史啓
 竹内 誠・長田 秀夫・大谷 直樹
 和田孝次郎・長谷 公洋・森 健太郎・300(3)
 (Neurological CPC)
 進行性構音障害を呈した 71 歳男性例
小野内健司
 福田 隆浩・秋山 治彦・鈴木 正彦・699(6)
 MIBG 心筋シンチグラフィの集積低下を認めた FTLD-
 MND の 62 歳男性
野本 信篤・内原 俊記・織茂 智之・1205(10)
 (学会印象記)
 International Psychogeriatric Association International
 Meeting 2012 (2012 年 9 月 7~11 日, ケアンズ)
田渕 肇・106(1)
 Neuroscience 2012 The 42nd Society for Neuroscience
 Annual Meeting (2012 年 10 月 13~17 日, ニューオーリ
 ンズ)佐藤 暢哉・214(2)
 28th Congress of the European Committee for Treatment
 and Research in Multiple Sclerosis (2012 年 11 月 10~13
 日, リヨン)田中 正美・216(2)
 18th Annual Meeting of the Organization for Human Brain
 Mapping (2012 年 6 月 10~14 日, 北京)
北城 圭一・308(3)
 第 8 回世界脳卒中学会 (2012 年 10 月 10~13 日, ブラジリ
 ア)長尾 毅彦・310(3)
 American Association of Neuromuscular and
 Electromyography (AANEM) 59th Annual
 Meeting (2012 年 10 月 3~6 日, オランダ)

-園生 雅弘・484(4)
- Biennial meeting of World Federation of Neurology Research Group on Aphasia and Cognitive Disorders (2012 年 12 月 9～12 日, ハイデラバード)
-杉本あずさ・486(4)
- The 11th International Conference of Alzheimer's and Parkinson's Diseases (2013 年 3 月 6～10 日, フィレンツェ)村上 秀友・596(5)
- The 9th International Congress on Mental Dysfunction and Other Non-Motor Features in Parkinson's Disease and Related Disorders (2013 年 4 月 18～21 日, ソウル)
-武田 篤・994(8)
- 14th International Congress on Schizophrenia Research (2013 年 4 月 21～25 日, フロリダ)
-竹内 啓善・1100(9)
- 17th International Congress of Parkinson's Disease and Movement Disorders (2013 年 6 月 16～20 日, シドニー)
-小澤鉄太郎・1102(9)
- The 22nd European Stroke Conference (2013 年 5 月 28～31 日, ロンドン)豊田 一則・1214(10)
- The 22nd European Stroke Conference (2013 年 5 月 28～31 日, ロンドン)河野 友裕・1216(10)
- The 19th Annual Meeting of the Organization for Human Brain Mapping (2013 年 6 月 16～20 日, シアトル)
-浅野 孝平・1218(10)
- Alzheimer's Association International Conference 2013 (2013 年 7 月 13～18 日, ボストン)
-小野賢二郎・1414(11)
- The 29th Congress of the European Committee for Research and Treatment in Multiple Sclerosis (2013 年 10 月 2～5 日, コペンハーゲン)
-新野 正明・1528(12)
- (連載 神経学を作った 100 冊)
- (73)アンドレートーマ『小脳——解剖学的・臨床的・生理学的研究』(1897).....作田 学・108(1)
- (74)フォア, ニコレスコ『脳解剖学』(1925)
-作田 学・218(2)
- (75)エコノモ『嗜眠性脳炎——その後遺症と治療』(1929)
-作田 学・312(3)
- (76)マリネスコ『脊髄空洞症における腫脹手と筋萎縮』(1897)
-作田 学・488(4)
- (77)プロートマン『細胞構築による大脳皮質の局在』(1909)
-作田 学・598(5)
- (78)ベルガー「人間の脳波」(1938).....作田 学・718(6)
- (79)スチュアート『神経疾患の診断』(1906)
-作田 学・902(7)
- (80)モンラッド＝クロン『神経系の臨床検査』(1921)
-作田 学・998(8)
- (81)レントボルク『進行性ミオクロヌスてんかん』(1903)
-作田 学・1104(9)
- (82)モニス『脳血管造影術』(1940).....作田 学・1224(10)
- (83)ブムケ, フェルスター『神経学全書』(1935-1937)
-作田 学・1416(11)
- (84)ヘイメイカー, ウッドホール『末梢神経外傷——診断の理論』(1945).....作田 学・1544(12)
- (連載 神経疾患の疫学トピックス)
- (1)アメリカンフットボール選手ではアルツハイマー病, 筋萎縮性側索硬化症の発症リスクが 4 倍に高まる。
-桑原 聡・佐藤 泰憲・996(8)
- (2)筋萎縮性側索硬化症は利き手から発症することが多い。
-桑原 聡・佐藤 泰憲・1222(10)
- (3)人差し指が短いのは筋萎縮性側索硬化症の発症リスクである。
-桑原 聡・佐藤 泰憲・1542(12)
- (現代神経科学の源流)
- ジョン・C・エックルス【前編】
-伊藤 正男・酒井 邦嘉・589(5)
- ジョン・C・エックルス【中編】
-伊藤 正男・酒井 邦嘉・711(6)
- ジョン・C・エックルス【後編】
-伊藤 正男・酒井 邦嘉・895(7)
- (ポートレイト)
- チャールズ・デビッド・マースデン——生理学的基礎知識に基づいた優れた臨床神経学者.....宇川 義一・303(3)
- 松原三郎——その鉄腸的な生涯.....松原 四郎・1407(11)
- (1枚のスライド)
- 久保田 競.....泰羅 雅登・99(1)
- 小阪 憲司.....神田 隆・1521(12)
- (特別対談)
- 1913——茂吉・ブルースト・ヤスパース
-岩田 誠・河村 満・1531(12)